

特別定価

630YEN

www.cooltrans.net

平成18年10月1日発行

第12巻10号(毎月1回、1日発行)

平成8年8月6日 第三種郵便物認可

No.132 OCT 2006

10

クールトランス

特別付録

HIDE AND SEEK  
ジップペンケース



MONTHLY PICK UP ARTIST

湘南乃風  
スネオヘアー

●ミリタリー、スタックス、ロールアップetc. 秋の10大キーワード  
●重要セレクトショップTOPICS ●スペシャルNEWSアイテム集  
ファッション関係者十街頭調査で今季のマストキーワードがわかった!

情報解禁!!!

'06秋冬ストリート  
最速NEWS!!!

COVER / 成宮寛貴

岡田義徳、松山ケンイチ、田中圭etc.  
人気俳優6人の秋服を先取り!!

今すぐ欲しい人気100ブランドの新作速報!!  
SPECIAL BRAND BOOK  
in A/W 2006

夏→秋の“カンタン&クイック”  
着回し講座

秋の重要アイテム

- 1 秋シャツ“チェック派”or“ストライプ派”?
- 2 NEXTトレンド最有力は“セットアップ”!!

新学期イメージ企画  
秋のNo.1ヘアスタイル研究

未来はハッピー!?  
フリーター白書2006

小物の“セオ買い”がコーディネート第一印象を決める!

まず変えるべきは“シューズ&バッグ”!!

# Hedge

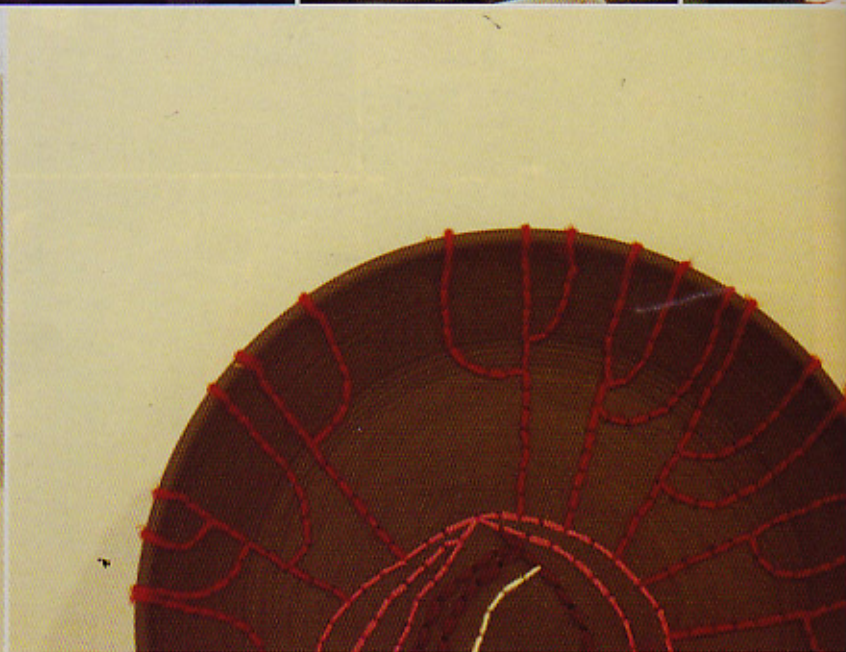
'90年代初頭、ビースティ・ボーイズのマイクDらとともに〈XLARGE®〉を設立し、新しいストリートカルチャーを発信したアダム・シルヴァーマン。そんな彼は現在、ファッション界を完全離脱し、陶芸家の道を歩み、L.A.やここ東京で注目を浴びていることをご存じだろうか。今回のHedgeは、アダムの知られざるキャリアと、非凡なセンスを炸裂させた、革新的な陶芸作品を追った。

Photos / Go TANABE (P183-185), Aya MUTO (P186) Translation / Aya MUTO Design / Masaru YOKOYAMA Edit / Hiroshi KAGIYAMA, Hideki GOYA (EATer)

VOL.

## ADAM SILVERMAN





7	3	1
	4	
5	6	2

- 1, 2 この淡い色合いと洗練されたフォルムが、アダムのオリジナリティ
- 3, 4 去る7月、千駄ヶ谷の「プレイマウンテン」と「プレイマウンテン ヴィラ」にて、アダム・シルヴァーマンの個展「Atwater Pottery Exhibition」が開催。限定販売されたシリアルボールは、瞬く間に完売した
- 5, 6 アダムの妻でありアーティストのルイーズ・ボネットが、アダムの手がけた器に手刺しゅうを施した、夫婦によるコラボレーション・アイテム
- 7 武骨さと軽やかなフォルムを併せ持つフラワーベース

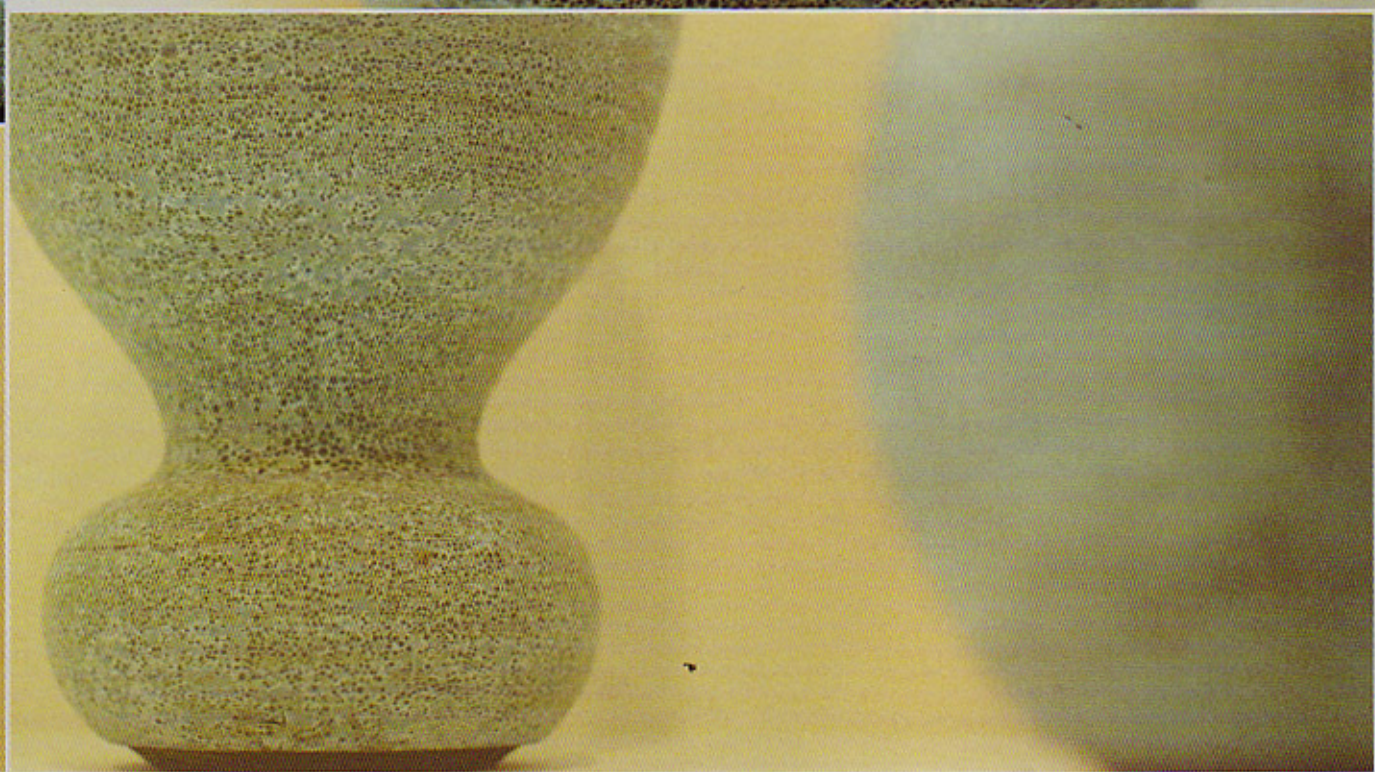
※アダム・シルヴァーマンの商品の問い合わせ先は、すべてプレイマウンテン ☎03・5775・6747

るのならないよ。」と笑われて(笑)。その時は、何年か住んで飽きたら帰ればいいかなと思って、L.A.に住むことを決めただんだ」

では、アダムが西海岸に活動拠点を移し、《X LARGE》を設立した経緯は、どんなことだったのだろうか？

「L.A.に引っ越して3年目に、イライとマイクDと僕で《X LARGE》を設立したんだ。当初は、3人とも自分たちの近所にショップを作りたくて。裏庭にはカフェがあったり、ヘアサロンがあったり、ちょっとした本屋があったりと、洋服屋以上のものを作りたくて、手探りで始めたんだ。一番最初に自分たちで手がけたのは、Tシャツとベイスボールキャップ。あとは、当時自分たちが好んで着ていた《カーハート》と《ヘン・デイビス》をそろえている程度だった。それが1991年。その後、ショップの斜め向かいにジョージスというキャブリーもオープンさせたよ」

# ADAM SILVERMAN Way of Ceramic Art



## アダム・シルヴァーマン が辿った、 陶芸家への道程

アダム・シルヴァーマン、42歳。N.Y.で生まれ、幼少期はN.Y.から程近いコネチカット州で育つ。アメリカのごくごく普通の少年が伝統工芸の素晴らしいさを初めて体感したのは、12歳のころだった。

「コネチカット州の北にあるハックスロットクという地域に工芸のキャンプ場があって、夏休みにそこへ行きたいと親に申し出たんだ。そこで一番気に入ったのがガラス吹きで、すごく楽しかったのを覚えているよ。その後、家の近所の個人工房に通い始めたんだ。だから、もしかするとそのキャンプが、陶芸家の道を歩む最初の転機だったのかもしれない」

そう語るアダムは、高校時代には木工の授業が受けられるなど、陶芸をはじめとした伝統工芸に触れる機会の多い環境で育った。

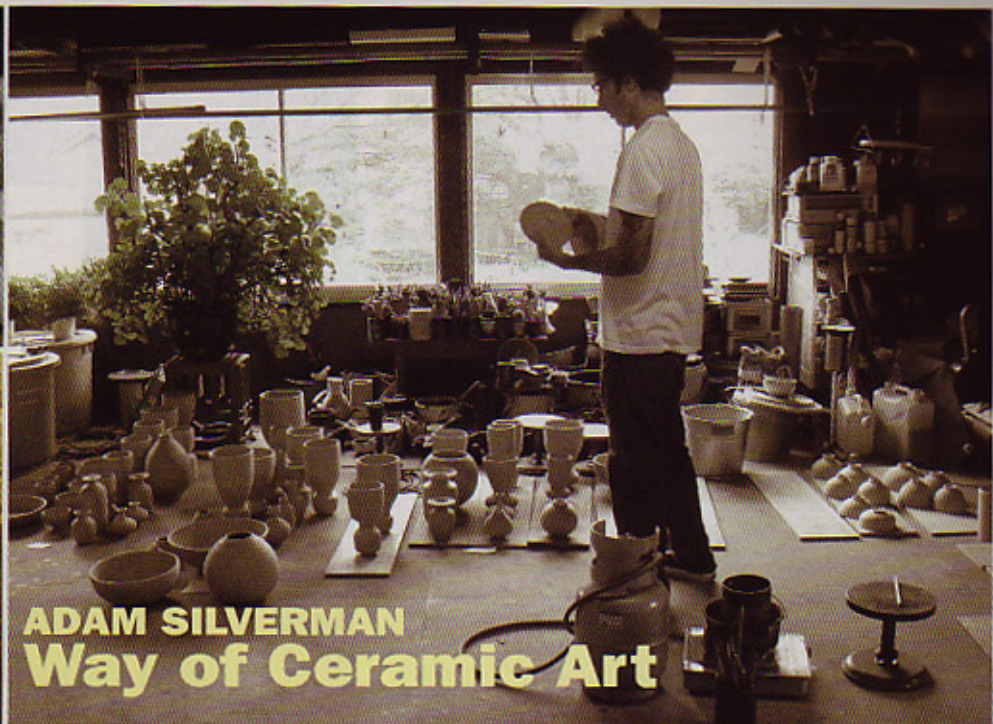
「高校では大きな木の彫刻を作ったりしていたよ。ちょうどそのころから、陶芸を始めるようになったんだ」

大学時代には、本格的に陶芸に没頭しつつ、建築学にも目覚めた。

「最初はコロラド大学で1年間、陶芸を専攻して、2年目にはロードアイランド・スクール・オブ・デザインへ転校して建築学を専攻した。でも、建築を勉強している間も、陶芸はずっと続けていたんだ」

そんなアダムに再び転機が訪れた。それは、地元である東海岸を離れ、L.Aへわたることだった。

「大学を卒業してN.Y.に住んでいたんだけど、夏休みにL.A.に住む友人のイーライ（EHLARGE）の主宰者の家を訪ねたんだ。そこで、偶然にも大学の同級生や友人たちと再会して、彼らから、L.A.はいろんな仕事があるよ、って誘われたので、たまたま持っていた建築の作品ファイルを見る業者へ見せたら、月曜日から働け



## ADAM SILVERMAN Way of Ceramic Art



アダムもリスペクトする浜田庄司が陶芸活動の拠点をしていた栃木・益子。その陶芸の文化が根付く街に、自身3度目の訪問を果たしたアダム。2週間滞在し、自身の陶芸活動に没頭した。「益子の土は荒いので、指先が擦れてしまうんだ。しかも、砂っぽくて、水分が強固に結まっている感覚。普段LAで使っている粘土とは、ひとつひとつの粒子の感触や密度が違う感じがするんだ」

「XLRARGE」は、小さな近所のショップを作り、やりたいことをやっていただけなんだけど、会社が急激に大きくなり始めて、僕が経営の面倒をみなければならなくて。辞める5年くらい前から、徐々にクリエイティブな要素が少なくなっていくからね」  
ある意味、ゼロからのリ・スタートを選んだアダム。だが、彼には、高校時代から続けていた陶芸の道があった。建築学やファッションという類まれなキャリアを積み重ねて生まれたセンスが、アダムのクリエイティブの源には宿っている。だからこそ、彼の陶芸には、独特な稲葉による淡いカラーリングや質感、キュートなフォルムに至るまで、かつてないモダンな世界観が炸裂している。

「陶芸がファッションや建築と明らかに異なるのは、指先を使って作るというところ。自分の神経が伝わるしね。僕の陶芸は、形に合わせて釉薬と調合したり、質感を考えたり、使いは言えないけど、とにかく自分が一生懸命続けてきたものを、ほかの人に見てもらったり使ってもらえるのが一番嬉しいよ。例えるなら、君が着ているTシャツ、カッポイイね」と言われるよりも、僕の陶芸によって、誰かの人生が豊かになるほうが幸せなんだ」

アダムたちにとって「XLRARGE」は、本来自分たちが楽しむカルチャーだった。が、1992年には東京・渋谷にもショップをオープンし、渋谷区原宿間のストリートカルチャーの原点を形成。その後、「XLRARGE」は急激に拡大の一途を辿り始めた。  
その渦中で、アダムは「XLRARGE」はもとよりファッション界から離れることを決意したのだ。

**L.A.で生まれた友人たちとの絆。そして、陶芸家の本道**